

日本大学芸術学部



校友会報

平成30年5月発行
2018年春季号

100

C O N T E N T S

平成 30 年度総会のご案内	2	鹿児島江古田会総会	11
第 12 回日藝賞決定	3	岡山江古田会総会	11
“新生江古田計画” 始動中!	4	秋田江古田会総会	12
皆さん今日は!	5	江古田会各支部連絡表	12
日藝の卒博開催	9	学部ニュース	13
愛知江古田会総会	10	学科ニュース	13~19
台湾江古田会総会	10	編集後記	19
岩手江古田会総会	11		

INFORMATION

平成30年度 総会のご案内

2018 6.16 [土] 午後 5:00

総会終了後、ただちに懇親会に移ります。

ご出席のはがきを是非お出しください。

- 会費 喜寿を越えられた卒業生 …… ご招待
それ以外の卒業生 …… 3,000円
- 議題 1. 会務報告 2. 会計報告 3. 予算審議
4. 推薦校友 5. その他

場所  日本大学芸術学部内
TEL. 03-3554-5363

※当日、正門にてご案内致します。

第12回日藝賞決定

毎年活躍した校友を表彰し賞金とトロフィーを授与する「日藝賞」の第12回受賞者が決定し、4月4日の入学歓迎式において授与式が行われました。

今年の日藝賞受賞者、片瀬須直さんは初代日藝アンバサダーとして日藝の広報活動にご協力いただきます。



アニメーション映画監督。1960年生まれ。日大芸術学部映画学科在学中から宮崎駿監督作品『名探偵ホームズ』に脚本家として参加。『魔女の宅急便』（89／宮崎駿監督）では演出補を務めた。TVシリーズ『名犬ラッシー』（96）で初監督。その後、長編『アリーテ姫』（01）監督・脚本。TVシリーズ『BLACK LAGOON』（06）監督・シリーズ構成・脚本。長編『マイマイ新子と千年の魔法』（09）監督・脚本では、口コミで評判が広がり異例のロングラン上映とアンコール上映を達成した。2016年、監督・脚本を務めた『この世界の片隅に』を完成し、同作は第90回キネマ旬報ベスト・テン日本映画第1位、第71回毎日映画コンクール日本映画優秀賞・大藤信郎賞、第40回日本アカデミー賞最優秀アニメーション作品賞、第41回アヌシー国際アニメーション映画祭長編部門審査員賞、第19回プチョン国際アニメーション映画祭長編部門グランプリ等、国内外で多数受賞し、文化庁長官表彰を受けた。

2006年から日本大学芸術学部非常勤講師。2018年からは同大学特任教授。2013年からは東京藝術大学大学院でも非常勤講師を務める。日本映像学会、日本アニメーション学会所属。

“新生江古田計画”始動中！

2019年4月より30年ぶりに全学年が江古田で修学となります。

現在「A棟」を建設中。

また、2021年には芸術学部創設100周年を迎えます。



皆さん今日は！

本年より皆様の仲間入りをします。どうぞよろしく。

●服部 真拓 (写真学科卒)

日芸で過ごした4年間は、今まで22年の人生の中で最も短く、そして最も密度の濃い4年間でした。「大学で写真を学びたい」という漠然とした想いで選んだ日芸は、自分が想像した以上に愉快で、エネルギーで、なんでもアリな場所でした。面白そうな事は全部やろう、と息巻いていた1年生の私。芸祭本部に入り、3年生では実行委員長という大役を務めさせて頂きました。一方で写真の方はと言えばまさに「学成り難し」。銀塩、シノゴ、スタジオワーク……。どれも初めての事で、1、2年生の頃は大いに手こずり、嫌々再撮していたのも今は良い思い出です。3年生になってからは実践的な授業も増え、自分の撮りたい作品性も次第に明確になり、自ら写真と向き合う時間も次第に増えていったように思います。気付けば



あれだけ苦戦したシノゴを担いで、卒業制作の撮影に駆け回っていたのですから本当に分からないものです。これだけ写真に真剣になれるとは正直思っていませんでしたが、日芸での4年間を経て、ようやく自分の道筋が見えてきたような気も致します。4月からはスタジオマンとして、日芸で学んだことを忘れず、これからも写真と向き合っていくと思います。

●掛 祥葉子 (写真学科卒)

日芸に入るきっかけになったのが、高校の頃塾の先生が写真好きだったことでした。進路が決めきれない私に写真を撮ることを勧めてくれたおかげで、この春4年間通った日芸を卒業することができます。



進路に悩んでいた頃、カメラを持つと自ら進んで人と話せるようになった経験をしたことで写真は人と人を繋いでくれることを実感し、もっと写真を通じて人とつながりたい、写真のことを学びたいと日芸に入学したことを覚えています。最初は雑誌の表紙を撮るようなカッコいいカメラマンになりたいと考えていましたが、大学で授業を受ける中でいくつもの心が揺れて忘れられない作品を見て、写真作家という道に憧れるようになりました。そして4年生で作家をしている先生のゼミをとり卒業制作をつくっていく中で、卒業後写真作家になるために写真を続けていきたいと強く思うようになりました。そう思えたのは日芸に入って先生や友達との出会い、写真以外の勉強を学べたからでもあります。写真に面白さを初めて感じたときの初心を忘れず、これからもカメラが私をいろんな場所へ連れて行ってくれることを楽しみにしています。

●北原 奈歩 (映画学科卒)

私が大学生活を振り返って思うことはただ1つ。まだまだ映画のお勉強がしたいということです！私は大学に入るまで自分自身が夢中になれるものに出会ったことがありませんでした。今、この文章を読んでくださっている方の中にも同じ経験をされた方がいるかもしれません。自分はこのまま平凡な人生を歩み続けるのだと勝手に決めつけていました。そんなとき、学科の名前が珍しいという理由で映画学科の受験をしました。結果は合格でしたが、映画について無知な私は入学したことを何度も後悔しました。ただ、昔から写真が好きだったので、カメラを触るのは楽しいと思うことが多かったです。そんな感覚でのんびり過ごしていたら、私の



周りはどんどん技術を上げているではありませんか。それを知ったときに初めて悔しいと思いました。そして同時に、自分が毎日のように映画を見ていることに気づきました。ああ、これがなにかに夢中になることか…と、北原が確信した瞬間でした。それにやっと気づけたと思ったら、もう卒業式です。この大切な気持ちに気づかせてくれた4年間を、私は生涯忘れたくありません。

●宮崎 渉大 (映画学科卒)

映画学科に入って、もう四年が経ちました。実験映画やメディアアートを主に勉強し、作品を作っていました。卒業が近くなり、ふと高校生の頃の自分を振り返ることが多くなりました。映画やテレビの業界に入りたいと夢見ていたあの頃が懐かしく思います。芸能人と一緒に仕事をして、楽しい毎日を送るはずでした。しかし就職はしませんでした。しばらくスーツの袖に腕を通すこともありません。「決心のきっかけは 理屈ではなくていつだってこの胸の衝動から始まる流されてしまうこと 抵抗しながら生きるとは選択肢 たった一つを選ぶこと」乃木坂46『きっかけ』の歌詞の一部です。



稲妻のような衝撃を感じました。私は「働くこと」よりも「学ぶこと」を選び、結果的に大学院の進学を選びました。やり残したことが出来ずに後悔しながら働きたくない、もっと作りたい、まだ勉強したい、この想いが次第に大きくなって、決心することができました。この決心は私の背中を力強く押してくれました。この大学に入って、様々な経験をしました。それでも私はもっと挑戦したいし、自分の武器を大きくしたい。ここで出会った人たち、また新たな場所に出

会うかもしれない人たち、みんなを倒すためには私はこれからも頑張らなければならないかもしれません。新たな自分を見つけてくれたこの大学に感謝を送ります。

●金子 貴富 (美術学科卒)

思い起こすと日藝で過ごした四年間はあっという間でした。最近、大学に入学した当時のことを振り返るのですが、正直な話、日藝に入学した理由を思い出そうとしてもぼんやりとしか思い出せませんでした。たしか、好きだった絵だけはがんばってみようと思い日藝に入学した、そんな理由だったと思います。それほど私の大学進学理由は希薄でした。



そんな中、ここまで絵画に熱中することができたのは、日藝の環境のおかげだったと思います。大学とは不思議な場所で、人が見えにくい場だと感じます。人の努力、交友関係、目標などがありわかりません。外から何か言われることも少なくなるのでみんなマイペースです。特に日藝の場合これらが顕著に現れているように思います。そんな良くも自分勝手な人たちが周りにいる環境だったからこそ、自分に素直に向かい合えたように思います。

顧みると反省や後悔が尽きない日々でしたが、とても楽しい毎日でした。マイペースだった自分を支えてくれた先生方、助手のみなさん、そして友人達が支えて下さったおかげで、この四年間とても多くのことを学べました。本当にありがとうございました。

●茂木 ひとみ (美術学科卒)

私は、三年次に絵画専攻と版画専攻に分かれる際、以前から興味があった版画を本格的に学びたいと思い、版画専攻を選びました。それから



の二年間は、あっという間に過ぎ去ってしまうぐらい、自分の制作に打ち込んだ怒涛の日々でした。課題や自主制作、ローイングなどを通して、版画の面白さと様々な表現の可能性に触れ、学びながら、自分がやりたいことや描きたいものを沢山見つけることができたと思います。もちろん、良いことだけではなく、苦しく悔しいことも多々ありました。版画は版が介在する分、繊細な作業が多く、少しのミスが全体に大きく響くことがあります。慣れない技法に苦戦し、制作がなかなか上手くいかず落ち込むことが日常茶飯事でした。でも、そうした難しさや悔しさがあったからこそ、より真剣に制作に向き合うことができたのだと今は思います。

自分の求めるかたちを作り上げるために試行錯誤を繰り返すことは、確かに苦しいけれど、その分想像だにしない発見があります。私はまだまだ勉強したいことが沢山あり、今度は大学院生として版画の制作を続けていきます。今まで以上にこれからも一瞬一瞬を大切に、制作にも自分自身にも更に挑戦し続けたいです。

●小早川 美波 (音楽学科卒)

小さい頃からピアノが大好きで、音楽高校に進学し、高校では“芸術”と“音楽”を学びたいと考え日芸に入学しました。入学当初は、着ぐるみを着ている人がいたり、雪の日には不思議なキャラクターが出来上がっていたりとなんて自由な大学に入学したのだろうと思いました。



そんな自由な大学でも、授業はとても専門的で幅広い芸術を学ぶ事が出来ました。特に印象的だった授業は、写真基礎演習です。

音楽は、時間の中で芸術を表現をしていくのに対して、写真は時間を止めた中で表現をするものであって、新たに芸術を表現するための手段を学ぶ事が

できました。

また、音楽分野では音楽学科のコンサートに毎年出演し、貴重な演奏の機会を豊富に頂く事が出来ました。そして、ピアノデュオという新しい音楽表現を深く学ぶ事が出来ました。

このように、音楽を学びながら様々な芸術に出会うことができ、理想的な4年間を過ごすことができました。私はいつの時代を振り返っても、音楽・芸術に熱中できてるとはとても幸せだと感じます。卒業後は、楽器メーカーに就職することができたので、今まで培ってきた音楽・芸術をより多くの方々に広げられるよう頑張りたいと思います。

●加藤 梨紗 (音楽学科卒)

「いつか音楽を仕事にしたい」はじめてこう思ったのは中学生の時でした。ぼんやりとは思いはありませんが具体的な夢や目標はなく、吹奏楽部で始めたサクソフォーンを大学でも専攻しました。大学に進学して間もない頃は、一人暮らしとレッスンや合奏の授業、さらに教職課程の勉強で戸惑うことばかりだったことを覚えています。



しかし、学校が楽しく友達とたくさん笑い、他の大学では受けられないような授業を受け多くのことを吸収しました。また、日芸祭では仲間と思いきり楽しみ、様々な演奏会に出演しとても充実した大学生活を送ることができました。3年次からは教員採用試験の勉強を始め、毎日楽器の練習と採用試験の勉強の両立で大変でしたが、4月からは母校の日本大学三島高等学校・中学校で音楽の教員として勤められることとなり、大変嬉しく思っています。これからは教えるという新しい立場になりますが、今までお世話になった先生方や両親、友達への感謝の気持ちを忘れずに、生徒に寄り添ってどんな生徒にも音楽が好きになってもらえるような授業をしていきたいと思っています。

●猿橋 茉莉子 (文芸学科卒)

「大学入ったら、シベリアに行きます」

……これは私が高校生のときに書いた大学生活への抱負なのですが、乾いた笑いしか出ません。ハハハ。アホって恐ろしいですね。さて、全ての単位を取り終え卒業を控えた2018年3月10日現在。私は家でゴロゴロしながら同人誌を読んでいます。結局、大学に入ってもシベリアには行かなかったし、そのほか想像していたような特別なことはなにも起こりませんでした。思い出するのは、サークルで好きな本やアニメの話をしたり、初めてコスプレをして同時にたぶん二度とやんねえなど決意したり、なんとなく東所沢駅〜校舎まで歩いて激しく後悔した、なんでもない日常ばかりです。ですが、そんな毎日が私にとってはなにより新鮮で、楽しいものでした。日芸には「なにかを作りたい」……もっと突きつめて言えば「何かになりたい」人が多いです。だからこそ自分も「何か」にならなければいけないと、ずっと思っていました。でも今は違います。何者かになれなくても、特別なものを持っていなくても、いいんじゃないかなと思います。それくらい、私にとってこの四年間は、充実したものでした。……うん。エモい感じに書けました。満足。最後に、こんなアヘアへ語彙力でも文芸学科の生徒として指導してくださった各先生方、仲良くしてくれた友人には感謝の言葉しかありません。本当にありがとうございました。



●浅野 佑希 (文芸学科卒)

「人工衛星の仕組みってご存知ですか？」と入学してすぐ話しかけられたこと、今でも覚えているよ」などと言われ、今になって赤面することがあります。二浪して入った大学、



「好きなものを凝縮して話さなければ！」とそれなりに気負いもしていたのです。けれど、いざ入ってみればもっと勢いのある話題をぶつけられ通して逆に圧倒されるばかりでした。新興宗教映画新宿、24時間強行ドラマ上映、尾張柳生と江戸柳生朝まで生討論などなど、自分では考えもしないことばかりで、もう目も回らんばかりの四年間。サークルやゼミで語り合った相手は誰もが好きなものに対しどこか譲れないものを抱えていて、時に熱が入りすぎることもありながら濃密に愉快地向き合ってくれていました。振り返ってみると、多様な趣味・感性がぶつかり合うなかで新しい視点を得ていくこの体験が、正に様々な学生の集う日芸の良さそのものだったのかな、などとも感じています。好きなものと向かい合う楽しさ、苦しさをこの4年間教えてくれた周囲の方々に感謝すると共に、大学院に進学してからも知りたいものへの食欲さを失わずに行きたい、今はそう思っています。ありがとうございました。

●鈴木 奈保子 (演劇学科卒)

今まで学校が好きなもの？と聞かれる機会が何回かありました。答えは、「いや、別に」です。小、中となんとなく過ごしていました。そんな生活に刺激が欲しくなり、高校で演劇部に入部しました。そこで思いのほかどっぷりハマってしまって大学でも演劇を学ぼうと思いついて進学しました。実際入ってみると個性的な人が多くとても楽しい印象が多くありました。実習もあり良い意味で暇がなく、常に何かに没頭していたなあと思います。私はマグロの様に常に何かをしていないとダメになる人間なのでマグロ体質の私にはそういった意味でも合っていた学校だったと感じます。そして卒業し春からまた違う形で学校に関わることになりました。



た。在学中は絶対にならないだろうと思っていましたが、この世の中に絶対は存在しないということはどうやら私は忘れていたようです。でも、こうして春から学校に携わることができるのも色々な方のおかげでもあります。何よりこの4年間の生活で私の「いや、別に」が「結構好き」に変わったということが大きな変化であり感謝したい所です。そう思わせていただいた先生方、そしてこの学校に精一杯の恩返しをしようと思います。またマグロの様に走り抜いていこうと思いますのでよろしくお祈りします。

●森山 史 (演劇学科卒)

幼いころから、大きなものが動くことやセットを見るのが好きでした。私は大分県出身で、地元の日芸の劇場の舞台監督さんの話で日芸の存在を知ったのは高校1年生の頃です。進路を決める際に高校の先生に日芸の名前を出しましたが高校の進路資料には芸術系の大学の前例もなく、受験対策の情報収集がとても大変でした。演劇学科装置コースはデッサンの試験があり、あわててデッサンの勉強を始めたのもいい思い出です。念願の大学時代は演劇・舞台美術漬けの4年間でした。先輩の主宰する公演のお手伝いをさせて頂いたり、総合実習で大道具の製作をおこなったり、プランニングを経験したり……。中でも、右も左もわからないなか先輩方の総合実習や卒業制作のタタキに参加させて頂けたのは今でも印象に残っています。また、自分たちの代の総実、卒制で、故・沼田先生をはじめ多くの先生がたにたくさん指導頂けたことは私にとって大きな財産となっています。卒業後、私は演劇学科助手として勤務しながら今後演劇の美術に関わる方法を模索していこうと思っております。この大学での大切な4年を忘れず、これからも頑張りたいと思います。



●新井 麻菜 (放送学科卒)

思えば4年前、ただ好きで、なんの違和感もなく見ていたテレビ。しかし自分が作った映像作品は違和感だらけでした。見ているだけでは想定もしていなかった、面白い面白くない以前の問題に直面し、考えれば考えるほど難しく、やればやるほど空回りをする日々。それは、入学当初抱いていたテレビ業界への煌びやかなイメージとは、相反するものでした。目指すものに対する壁にぶつかった時、それと同時に私の支えになるものがありました。「実習の授業でもなく、学生同士の自主制作でもなく、プロの立場として、また一緒に番組制作しようね。」とちょっとクサイ約束をできる仲間に出会えたこと。大学生活で何を得たかと問われたら、発想力や企画力、制作能力などと答えます。ですがそれはこれから鍛えていきます。足りたりではあります。が、「人間力」を育てて頂きました。才能はなくても、考え続ける力。不器用でも、めげない力。どんな状況も、楽しむ力。これから自分が飛び込む世界で、この4年間で育てて頂いた力を存分に発揮していきたいと思います。



●伊野部 智樹 (放送学科卒)

こんにちは、伊野部です。四年間を振り返ってみて、変わったことがいくつかありました。たとえば、関西弁から標準語になった、野菜を食べるようになり健康的になった、自分の好き嫌いが理解できるようになったなどです。これは周りの友人や、先生方の影響が非常に大きいと思っています。とくに好き嫌いがハッキリしたことに関しては、作品創りや就活などでとても役に立ち、これから先を決めるきっかけになったので感謝をしています。



高校生の頃、漠然と行きたいという気持ちだけでこの大学を目指していました。だからなのか、授業や有志の活動で決断を迫られるときに優柔不断になってしまうことが多かったように思います。しかし、大学生活をしていくうちに何かを決める場面が多く、自分の中の好き嫌いがはっきりしていきました。これはその機会を設けてくれたこの学校の環境、周りの人達のおかげだと思います。関わってくれた全ての人に感謝を述べたいです。レタスが嫌いだった私が今ではシーザーサラダが大好きに。

●中谷 真 (デザイン学科卒)

ここ数年、社会はますます複雑になり、分断され、細分化されています。世の中の状況にデザインは追いついているのか、そんなことを考えることが何度かありました。作り手と受け手との距離は想像以上に開いており、世の中を俯瞰して見る視点と、たくさんの情報を柔軟に翻訳する力はこれまで以上に求められているように感じます。4年間デザインを学ぶ中で、「空間」という概念、「見る」という行為にとっても興味を惹かれ、作品の主題にしてきました。見えない世界を見ようとするとき、人は少しだけ背伸びをしてそれと向き合います。視点の移動、好奇心が気づきを生み、体験として立ち上がっていきます。こうした体験を生み出すプロセスを初めて意識したのは、まだ所沢に通っていた2年生の頃でした。振り返ってみれば、この時から卒業制作まで一貫して同じことを続けていたんだと思います。作品作りでは、建築やメディアなどいくつかの分野を渡り歩く必要がありました。広い平野だと思っていたデザインは、高い壁で仕切られているようで、窮屈に感じることもありました。そうした弊害をほどいていくことが、これからの課題であり、そしてまた、楽し



みでもあります。

●長島 彩香 (デザイン学科卒)

あと一年早ければ。4年間の記憶を辿ると、この一言に尽きます。幼い頃から絵が描くことが好きだった私。思い切って進路を変更し、日芸に進学する決意をしました。在学中は、業界に関わる刺激的な経験を得ることができました。ただ、あと一年エンジンがかかるのが早ければ。その体験を将来に昇華させ、意欲的な友人の背中を追い越す心意気があれば。まだまだ個人の技量に向き合い努力できたと思うと、後悔しています。そして何よりも、友人や先生とあと一年早く出会っていれば。そう痛感するほど大学生活で構築した人間関係は濃いものでした。授業後に集って狭い空間で肩を並べて飲んだ夜。同じ話題で一喜一憂した帰り道。思えば、あの何気ないひとときこそが一番の思い出でした。もうあと一年そんな毎日が続けば良いのにと、卒業とともに思いは強くなっていくばかりです。私はそんなある種の後悔を埋めるため、卒業後も貪欲にデザインを続けることにしました。技量の向上を目指すことは勿論、何より大学で出会った友人や先生と好きなことを通しての再会を期待しています。目標に人間関係に、今年こそ貪欲に向き合っていく次第です。引き続きよろしく願いいたします。



日藝の卒博開催

日本大学芸術学部では、8つの学科の卒業成果物をご覧頂く機会として、平成27年より『日藝の卒博』と称し、写真・映画・美術・音楽・文芸・演劇・放送・デザインと、様々な卒業成果物を博覧会として総合的にご覧いただいております。

これまでは、日程調整などを中心とした学科間の協力のもと、行事としての体制を整えてまいりました。そして今回初めて学部行事として開催する運びとなり、「ニチゲイで、化けました。」をメインコピーに、年末のシーズン1(公演中心)、3月のシーズン2(総合発表)、春のシーズン3(映画上映)と進んでおります。

特にシーズン2では、日藝のキャッチフレーズ「8つのアート、1つのハート」を感じてもらおうと、8学科の作品・論文展示、上映・発表、そして演奏会等が実施され、3月17日及び18日はスペシャル・デイズとして、通常展示以外の様々な企画が行われました。最終日は展示時間終了後に、在学生による歌やダンス、演奏等のパフォーマンスを組み込んだ教員・学生合同制作の公開フィナーレイベントも実現し、木村学部長や田上校友会長のご挨拶も頂きながら、大いに盛り上がりました。

また、こちらも新しい試みとして、シーズン2最終日(3月18日)に『入試博覧会』と銘打った学科別進学相談会を同時開催いたしました。日藝を進路の一つとして検討されている皆さまには、我々を知っていただく新たな機会を設けましたことをご報告いたします。

○シーズン2開催期間 平成30年3月11日(日)から18日(日)まで

○開催場所 日本大学芸術学部江古田校舎



愛知江古田会総会

9月9日(土) 於：ホテルキャッスルプラザ

昨年、華やかな設立総会が催されてから丁度一年後にあたる平成29年9月9日(土)、第2回愛知江古田会総会が名古屋駅のホテルキャッスルプラザで開かれ、来賓3名、会員31名の計34名が参加しました。総会は、佐枝一史幹事(放送S47年度卒)の司会で進められ、まず、藤田勝支部長(演劇H9年度卒)による開会の挨拶。土岐洋子会計監査(演劇S53年度卒)による平成28年度の活動経過と会計報告が行われ、満場の拍手で承認されました。その後、木村政司新芸術学部長、田上竣詞校友会会長、川村晃生熊本江古田会事務局長の各来賓から祝辞やお土産を頂き、米山啓吾(文芸H4年度卒)の乾杯の発声とともに懇親会がスタートしました。会場には、一年ぶりの再会や懐かしい顔触れが揃い、ビュッフェ形式の料理を取り分けながら、各会員の近況報告や新会員の挨拶を聞き、楽しいひと時を過ごしました。また、前回御参加頂いた酒井康行参議院議員(放送S49年度卒)から祝電も読まれ、最後に竹岡幸彦(写真

S42年度卒)による集合写真の撮影で会を締めくくりました。二次会は、同会場のバーで開かれ、参加者の過半数が出席しました。二次会では、今回の出席者の中で、最年長である近藤利昭(美術S31年度卒)とお話することもでき、世代を超えた素敵な懇親会となりました。ずっと参加したかった江古田会に昨年より入会し、多くの先輩方とお話する機会ができ、最年少ということで大変可愛がって頂き、幹事の方々に大変感謝しております。また毎年、熊本県支部から同期の川村氏が名古屋まで来

てくれて、再会できるのも楽しみの一つとなっています。今回も愛知江古田会の特徴でもある「平成」と「女性」二つのセイも順調に拡大していて、今後、益々メンバーが増え、後輩達とも会える日も楽しみにしております。愛知江古田会は、益々の発展を目指してメンバーを募集しております。東海地区在住の卒業生や東海地区に所縁のあるOB・OGの皆様の御参加をお待ち申し上げております。お問い合わせは、藤田支部長(090-1783-5103)まで。三富 由杏子(演劇H15年度卒)



台湾江古田会総会

9月15日(金) 於：歐華酒店

平成29年9月15日(金)、日本大学芸術学部台湾江古田校友会29年度総会が台湾台北市《歐華酒店》にて開催されました。そして今回は同じ日に、国立台湾歴史博物館にて写真学科原直久先生の【時の遺産】写真展も開催されました。

総会には、日本から来賓として野田慶人学部長をはじめ、校友会の田上竣詞会長、高橋則英副会長、原先生がご出席され、また全部で45名の日本江古田校友会会員、日本大学台湾校友会及び台湾江古田校友会の方々にもご参加頂きました。総会は台湾

江古田校友会黄会長のご挨拶から始まり、野田学部長、田上竣詞会長、原先生のご挨拶、そして最後に会員が一人ずつ近況を語りました。

また、今回同じ日に原先生の写真

展【時の遺産】が台湾国立歴史博物館にて行われました。これは原先生にとって11年ぶりの台湾での個展になります。個展ではプラチナプリント、モノクロ写真、カラー写真など、合計



160枚の作品が展示されました。当日の午後2時からオープニングパーティーを行い、そして6時半からは江

古田校友会を行いました。校友会では原先生の創作活動や各会員の近況報告についての報告を聞きながら、

楽しい一日を過ごしました。

岩手江古田会総会

平成29年度岩手江古田会は10月28日(土)奥州市江刺区の料亭「新茶家」にて開催されました。

本部より木村政司学部長先生、田上竣詞校友会長のお二人に御臨席を賜りました。仙台からは自称「岩手江古田会宮城支部長」、桑折洋一宮城江古田会会長にも馳せ参じて頂きました。そして岩手の会員12名に日本大学校友会岩手支部高橋文一・新会長にも花を添えて頂き総勢16名での開催となりました。

5時45分から議事スタート、國分一彦会長のスムーズな進行で紛糾等皆

無で即終了となり、懇親会開始。

今回、学部長と校友会長お揃いで地方巡業は初めてとのこと。

校友会長からは「本来は中尊寺等を視察したかったが広い岩手なので時間が足りなかった。今回は泊りで参ります。」との話で皆笑顔となりました。

衆議院選挙を無事通過した会員もちゃんと参加し、後輩の一人として普通に参加してくれた事にも一同大喜び。

会場付近で生まれ育った会員も東京からわざわざ初参加も皆を大いに

10月28日(土) 於：新茶家

喜ばせました。その後は個々に自己紹介と近況報告、美味しい料理にお酒も進み、楽しく嬉しく大笑いした素敵な一夜となりました。



鹿児島江古田会総会

平成29年11月1日(水)に、鹿児島市の寿庵・荒田店で、鹿児島江古田会の平成29年度総会が行われました。木村政司藝術学部新学部長、鹿児島出身である野田慶人藝術学部前学部長、校友会から田中光子副会長、さらに熊本江古田会の奥村隆志様、佐賀江古田会の光野忠利様にもご出席いただき盛大な会となりました。

総会では中野順会長のあいさつに始まり、平成28年度の会計報告など

を行いました。その後の懇親会では、木村新学部長や野田前学部長を中心に江古田・所沢での思い出話や、変わりつつある江古田キャンパスの話に花を咲かせました。

また、2018年はNHKの大河ドラマで鹿児島の英雄・西郷隆盛を描いた「西郷どん」が放送されており、地元はますます盛り上がりつつあります。ご存じのとおりこの作品は、日藝OBの林真理子氏が原作、脚本を中園

11月1日(水) 於：寿庵・荒田店

ミホ氏が担当されています。大河ドラマと合わせて、鹿児島江古田会の今年の活動にご期待ください。



岡山江古田会総会

平成29年度の岡山江古田会総会・懇親会を11月18日岡山市内のアークホテル岡山にて開催いたしました。

当日は会員14名が集い総会が開催、校歌斉唱、中谷宏会長による挨拶に続いては、来賓としてお越しいただいた、木村政司学部長、田上竣詞校

友会長よりご挨拶をいただきました。ともに新学部長、新校友会長としてはじめて岡山江古田会にお越しいただいたお二方ですが、木村学部長からの江古田へのキャンパス通年化へ向けた取り組みや、近年の学生様子。田上校友会長からの校友会長就

任にあたっての所信表明、とりわけ、より学生をサポートしていける校友会体制を整えていきたいと言ったお話が印象的でした。事業収支報告、監査報告を経て総会は閉会。

学部長、校友会長にも引き続きご参加いただいた懇親会では、それぞ

11月18日(土) 於：アークホテル岡山

れの仕事や趣味などの近況報告からはじまり、学生時代の思い出話や、学部長への質問タイム、はたまた、岡山出身で日藝賞を受賞した三宅由佳莉さんに、ぜひ東京五輪の開会式で歌ってほしいと言った話題など、大いに盛り上がり、閉会後も多くの会員が二次会へと流れ、楽しい一夜と

なりました。

岡山江古田会ではこの総会に加え、毎年6月の作品展、年に数度の懇親会で、各会員の親睦を深めています。岡山ゆかりの同窓生の方のご参加お待ちしております。



秋田江古田会総会

秋田江古田会は、平成29年度総会を12月2日(土)午後5時から秋田市のイヤタカで開催いたしました。

ご来賓に、木村政司学部長、田上竣詞校友会長のご臨席をいただいて開催いたしました。

平成28年度の活動報告、決算報告に続き、平成29年度の事業については、会の発展向上などに努める交流会などを随時開き具体的な事案を検討することや会員の行なう各事業への協力、又、会報の発行の継続を承認されました。

総会後の懇親会では日本大学の校歌斉唱に始まり、支部長、ご来賓の挨拶のあと和気あいあいと学生時代のことに花が咲きました。特に木村学部長と学生時代同期の会員がおり、和やかに話が進みました。学部長のお話の中で、地方を元気にし、若い仲間を増やしたい、地方のいい所を伸ばし、Uターン、Aターンが必要、また、先輩と後輩の絆を強くしたいと話されておりました。

さらに話が進み田上校友会長の釣り談義で350ポンドのブルーマリー

12月2日(土) 於：イヤタカ

ンを釣り上げチームで準優勝した話など大変盛り上がりました。

事務局長 仙北屋 昭弘



江古田会各支部連絡表

各江古田支部に
ご在住の校友の皆さん

各支部では参加者を募っておりますので是非皆様のご連絡をお待ちしております。

支部名	名 前	卒業学科年度	連絡先
北海道江古田会	氏家 曹一	放送 52 年度卒	090-3468-6657
青森江古田会	高木 保	演劇 32 年度卒	0177-77-7708
秋田江古田会	仙北屋 昭弘	音楽 54 年度卒	090-2954-2283
岩手江古田会	佐藤 剛	演劇 53 年度卒	0197-25-5497
宮城江古田会	桑折 洋一	放送 55 年度卒	090-3752-8833
山形江古田会	横倉 晋也	美術 52 年度卒	023-631-8040
新潟江古田会	増井 伸一	写真 48 年度卒	025-233-3910
福島江古田会	島崎 恒夫	映画 31 年度卒	024-935-5410
長野江古田会	三浦 博之	放送 49 年度卒	0263-46-2583
愛知江古田会	藤田 勝	演劇 H9 年度卒	090-1783-5103
石川江古田会	干場 文夫	音楽 50 年度卒	090-6273-4982
岡山江古田会	藤井 一也	文芸 53 年度卒	090-3177-0334
福岡江古田会	飛嶋 慶一	写真 44 年度卒	090-6953-5543
佐賀江古田会	光野 忠利	映画 40 年度卒	090-9659-0952
熊本江古田会	奥村 隆志	写真 43 年度卒	090-7169-2909
宮崎江古田会	米倉 史朗	写真 52 年度卒	090-1080-8082
鹿児島江古田会	堀之内 隆	放送 49 年度卒	090-3739-7374

海外江古田会として台湾江古田会、韓国江古田会、中国江古田会があります。

学部ニュース

去る3月25日に平成29年度卒業式が挙行されました。

日本大学学長賞・優等賞・優秀賞、芸術学部長賞・芸術学部奨励賞など卒業生、大学院修了生に対する各賞の発表及び表彰がありました。

●日本大学学長賞(学業部門)

○文芸学科 齋藤優夏

●日本大学優等賞(学業部門)

○写真学科 村田はるか 寒河江碩之

友野由紀子 逸見祥希

○映画学科 佐竹つばさ 中島彰子

錦織 舞 濱谷仁美

○美術学科 茂木ひとみ 森山桃子

菊池茜里 大西笑生

○音楽学科 相楽明日香 妻倉由以子

大野 梢 福田万由香

○文芸学科 森田楠子 関口真理子

川田修平

○演劇学科 行成小夏 佐々木愛

厚地佑紀 渡邊拓馬

○放送学科 小亀未空 角谷 耀

金 定洙 中原真結

○デザイン学科 小林遼大 小林春香

長島彩香 二村佑紀

●芸術学部長賞(学業部門)

○写真学科 渡邊峻生 下山真輝

金 成津 薄井悠介

真壁敦史

○映画学科 林田さくらこ 清水大河

渡部未佳 松尾卓弥

伊藤希紗

○美術学科 植松美月 山本夏希

仲原友里子 金子貴富

大西笑生

○音楽学科 芝田佳央 小熊祥太

小針侑也 千崎 恵

木村弥素子

○文芸学科 新井雛子 長島瑞樹

羽生田幸来 小池 幸

高林真理

○演劇学科 足立佳野 土戸真美

佐々木愛 大迫七重

鈴木恵里

○放送学科 白井ハンナ 溝渕咲希

高橋 悠 島田佳奈

野村理佳

○デザイン学科 笠原 静 CHERNOVOLSKA VIKTORIYA

小林春香 斎藤潤也

村上佳央

●芸術学部長賞(学術・文化部門)

○放送学科 牧野玖美

●芸術学部長賞(その他部門)

○写真学科 服部真拓

●芸術学部奨励賞

○写真学科 田中伽奈

○映画学科 宮崎渉大

○美術学科 茂木ひとみ

○音楽学科 溝下晴久

○文芸学科 副島亜樹

○演劇学科 渡邊拓馬

○デザイン学科 横山広大

●金丸重嶺賞

○写真学科 田代夏子 植田千晶

南波遼平

●渡辺俊平記念賞

○映画学科 藤田 丞

●川野希典賞

○演劇学科 竹田朱里

●笠見有弘賞

○映画学科 木村孔紀

●大竹徹賞

○映画学科 太田薫子

●八木信忠賞

○映画学科 佐藤博貴

<大学院>

●日本大学芸術学部湯川制賞

○文芸学 中嶋悠里

○映像芸術 PENG WEI

○造形芸術 加賀谷真秀

○音楽芸術 石田奎斗

●日本大学芸術学部澤本徳美賞

○文芸学 下田凌也

○映像芸術 ZHANG CHENLIANG

○造形芸術 李 达

○音楽芸術 柴田崇考

○舞台芸術 横山八枝子

学科ニュース

写真ブロック



●後期は客員教授の大石芳野先生(昭和41年度卒)と宮嶋茂樹先生(昭和58年度卒)の特別講義が下記のとおり開催されました。

・宮嶋茂樹「現在の雑誌ジャーナリズムにおける報道写真の推移」が11月20日は江古田校舎で高学年を対象

に、11月21日は所沢校舎で低学年を対象に行われました。1980年代の写真週刊誌の台頭から衰退、写真技術の変化に伴う取材の変化などを実体験から、学年にあわせた講義をされました。

・大石芳野「フォトジャーナリストの仕事」が11月11日に江古田校舎で大学院生を対象に、1月19日は所沢校舎で1、2年生を対象に開催されました。対象学生にあわせ、撮影時の状況やエピソードをまじえながら、写真を何故撮るのか、フォトジャーナリ

ストの仕事の本質などを伝えていただきました。

●今年度から開講したオムニバス授業「写真特別講座Ⅱ」の後期のみの担当者として馬場道浩先生(昭和57年度卒)、竹見脩吾先生(平成19年度卒)、安田菜津紀先生の3人の講師をお迎えしました。

●練馬区健康推進課と日本大学芸術学部写真学科・デザイン学科による官学連携プロジェクトとして乳がん月間ポスター展「乳がん、ひと、想い」が昨年同様今年も10月1日から31日ま

で練馬区役所本庁舎1階アトリウム、2階通路掲示板(東側、西側)および練馬区内各保健相談所で開催されました。このポスターは、写真学科の4年生8名が撮影した写真をデザイン学科学生がポスターに仕上げたものです。参加した写真学科学生は石塚真穂子、掛祥葉子、片岡誠、金成津、黒澤亜由美、比地原衣里子、溝上佳蓮、森紗英子です。

●「出て来い新人6-日本大学芸術学部写真学科気鋭学生写真展」(10月17日～10月23日)をニコンプラザ新宿 THE GALLERY 2で開催しました。出品者は4年生の村田はるか、薄井悠介、3年生の丸喜翔太、乙川和矢、岩下響、山田凌、丸夏実、水野敦史、松井友輝です。前回までは4年生を対象としておりましたが、今回から1年生から4年生までの全学生に挑戦の機会を広げました。その結果、多くの3年生が展示するという結果になりました。

●平成29年度日芸祭展示作品の中から写真学科奨励賞を橋場翔一「three pieces」(3年)、中野優太「swallowed in the sea」(2年)、柏瀬克也「イメージの氾濫」(2年)が受賞しました。また写真学科卒業生の会・新写真派協会から新写真派協会賞が栗原朗「つなく」(1年)に授与されました。

●オリジナルプリント展「異邦人の眼」を芸術資料館(10月31日～12月1日)で行いました。渡辺義雄(日本大学名誉教授)、奈良原一高、原直久(昭和43年度卒)、塚原琢哉(昭和33年度卒)、大石芳野(昭和41年度卒)、福原信三、齋藤康一(昭和34年度卒)、石元泰博、森永純(昭和34年度卒)、小川隆之(昭和33年度卒)〔展示順〕という日本人写真家が1930年代から1980年代までのヨーロッパ、中国、アメリカという異国の地で制作した白黒写真81点が構成されました。この企画にあわせて同時開催で「異邦人の眼 写真家ベアトの見た幕末明治の日本」展を写真ギャラリーで行いました。こちらは外国人が見た日本の姿です。

●平成30年度「総合大学の理想像をめざす日本大学」のメイン写真のコン

テストで、最優秀賞を栗原朗「凜」(1年)が受賞し、誌面を飾ることとなりました。優秀賞には大橋唯香「はばたけ!世界へ!」(1年)、市毛奈津子「宇宙(ソラ)のまたたき」(4年)、学務部長賞には上井梨花「grand pas de chat」(2年)が選出されました。12月14日、日本大学会館大講堂において表彰式および懇親会が開催されました。

●今年度初の企画として「SELECT SELECT 2018 日本大学芸術学部写真学科学生選抜作品展」を芸術資料館で2月17日から3月2日まで開催しました。これは平成29年度に学外で開催した写真学科企画による学生の写真展「GRIP 2017」(ポートレートギャラリー、5月)と「出て来い新人6」(ニコンプラザ新宿 THE GALLERY 2、10月)に出品した12名の学生の14作品をそれぞれが厳選して再構成して学内で展示しました。一般はもちろん芸術学部の学生や教職員の方々にも写真学科の活動を知って頂きたく企画したものです。

●第46回公益社団法人日本広告写真家協会公募展APAアワード2018において、学生賞を4年生の下山真輝「Animal Spirits～旅の途上～」が受賞しました。この実績により優秀な学生に贈られる日本大学芸術学部第2種奨学金も得ました。また3年生の水野敦史「その先へ」もAPAアワード2018で入選しました。

●今年で7回目となる「日本大学芸術学部写真学科卒業制作選抜展」がニコンプラザ新宿 THE GALLERY 1+2で開催されました。昨年に引き続き「写真学校8校による卒業制作展2018」(2月20日～3月5日)の中での開催であり、最初の1週間2月20日から26日まで他の3校と合同での展示となりました。卒業制作から新たに展示用作品を制作し展示しました。出品者作品は、内山優佳里「沈没船は潮流に乗る」、金成津「01」、蔡嘉辰「Bye Bye black bird」、下山真輝「japaneses skate / border」、高瀬拓真「what's your Vibe?」、真壁敦史「Breath of the Earth」、渡邊峻生「残影 - 足尾・別子の今 -」です。展示希

望者を公募し、審査により決定しました。

●「2018卒展」が3月11日～3月18日に日本大学芸術学部江古田校舎東棟の写真ギャラリーおよび1～3階各展示スペース、西棟の芸術資料館で行われました。展示作品の中から木村祐樹「Drone」、道順与郎「#20parks #20parties」、服部真拓「RE-CREATION」に写真学科奨励賞を授与しました。また薄井悠介「composition_ “もしくは、無作為と作為と忘却”」には新写真派協会賞が授与されました。

●卒業制作の中から金丸重嶺賞が植田千晶「ここに生きている」、田代夏子「modern people」、南波遼平「そこにいた「美」」に決まりました。その他の賞については「学部ニュース」のページをご覧ください。

●平成29年度芸術学部長賞(その他の部門)を服部真拓が受賞しました。平成28年度芸術祭本部実行委員会委員長を務めたこと、およびNU祭ビデオ発表で16学部の作品の中から最優秀企画賞に選ばれたことによるものです。

●(協)日本写真館協会主催、日本大学芸術学部および日本大学芸術学部写真学科後援による「プロフェッショナルフォトゼミナール2018」が3月27日に江古田校舎で開催されました。

●平成29年度をもって小野寺榮一先生(昭54年度卒)、池田正一先生(昭54年度卒)が写真学科を退職されました。

●5月8日から6月8日まで日本大学芸術学部江古田校舎芸術資料館でオリジナルプリント展「Life 命の輝き-Portraits-」を開催します。ご来館いただければ幸いです。

●5月24日から5月30日までポートレートギャラリーで「GRIP 2018日本大学芸術学部写真学科学生選抜作品展」を開催します。2年生から4年生まで10名の学生が参加します。ご高覧いただければ幸いです。

●写真展および直近情報等の詳細は日本大学芸術学部ホームページ、写真学科公式Facebook/Twitterをご覧ください。

映画ブロック



●平成29年度映画学科各賞が、次の卒業生の論文・計画・制作に授与されました。

☆第45回渡辺俊平記念賞

(映像表現・理論) 藤田 丞

☆第20回筈見有弘賞

(映像表現・理論) 木村孔紀

☆第11回大竹徹賞

(映像表現・理論) 太田 薫子

☆第12回八木信忠賞

(録音) 佐藤博貴

☆第42回映画学科奨励賞

(映像表現・理論) 高木 雛、石川皓一、多賀谷 渉、(監督) 小林大輝、(撮影) 堀内希子、(録音) 兼高真阿沙、(演技) 加藤千尚

☆第27回映画学科選奨

(映像表現・理論) 小波津龍平、林田常平、菱沼大夢、(監督) 小林弥生、(撮影) 業天大和、(録音) 久保和輝、(演技) 谷村陽輔

☆第25回映画学科特別賞(伊藤忠ケーブルシステム提供)

(映像表現・理論) 水瀬弘斗、堀川湧気、小川笹乃、(監督) 赤石真菜、(撮影) 後藤美月、(録音) 錦織 舞、(演技) 田中里実

☆第15回アートルライティング賞(東芝エルティーエンジニアリング提供)

(撮影) 崎広亮太〔照明にたいして〕

☆第17回映画学科コダック賞(コダックジャパン提供)

(監督) 川満佐和子、白井太郎、(撮影) 北原奈歩、塚塚達也、(録音) 山田萌香、島田実里、(演技) 小林京香、山田朝華

☆第3回三善賞〔(株)三善提供〕

(演技) 岡野きらら

●以下の各賞が、映画演出Ⅲ・技術Ⅲ・

総合制作演習Ⅱに授与されました。

☆江戸クリエイト賞

(監督) 星野孝輔、屋代晴香、高木千花

☆三善賞

(演技) 川崎樹音

☆映画学科コダック賞

(撮影) 林 大智、後藤真之介、峰 有志、相田千里、川口真奈、杉山綾

☆映画学科特別賞

(録音) 前田瑠香、田中柊子、小野友里香

☆アートルライティング賞

(撮影) 柳田菜生

●平成30年度より、次の先生が新しく映画学科の講座を担当します。榎木章講師(映画特講Ⅵ)

●平成29年度をもちまして、次の先生方が映画学科を退職されます。岡島尚志講師 映画学科の発展にご尽力いただきありがとうございました。

美術ブロック



★第42回 全国大学版画展において藤井志保(H29年度卒)が《永遠の再生》銅版画で買い上げ収蔵賞を受賞しました。第12回大学版画展受賞者展が開催されます。

会期:7月9日~7月20日

会場:文房堂ギャラリー(御茶ノ水)



★第2回、日本大学芸術学部美術学科主催高校生自画像(付属高校)デザインコンクールが開催されました。多数の応募作品の中から、以下の受賞者が決定されました。

<大賞>藤倉永梨(土浦日本大学中等教育学校)、<優秀賞>高村李帆(日本大学山形高等学校)、<特別賞>

大口愛実(長崎日本大学高等学校)、<学科賞>岩永千聖(長崎日本大学高等学校)、<協賛賞(クサカベ)>

細川京佳(長崎日本大学高等学校)、<協賛賞(ステッドラー)>鈴木拓都(日本大学山形高等学校)、<佳作>

本田航生、松尾美咲、嵩下桃子、鶴田千秋(長崎日本大学高等学校)、大波日和(日本大学東北高等学校)、福澤

和紗(日本大学櫻丘高等学校)、青柳有華(日本大学鶴ヶ丘高等学校)、谷田部楓(日本大学豊山女子高等学校)、飯千秋穂、池平樹音(宮崎日本大学高等学校)

■FRIEND'S FRIEND

世界の現代版画

会期:4月1日~5月6日

会場:池田記念美術館(新潟)

笹井祐子教授、鶴巻貴子(H16年度修了)が出品します。

■日比野絵美個展

会期:5月21日~5月26日

会場:藍画廊(銀座)

日比野絵美(H20年度修了)の個展が開催されます。

■第55回太陽展

会期:5月24日~6月12日

会場:日動画廊(銀座)

櫻井孝美客員教授、福島唯史教授、設楽俊元助手他が出品します。

■版とMatrix

会期:5月28日~6月9日

会場:葡萄屋(東逗子)

笹井祐子教授、五島三子男(S46年度卒)が出品します。

■3つの個性

会期:7月2日~10日

会場:ギャルリ・サロンドエス(銀座) 福島唯史教授が出品する3人展です。

■素描展

会期:7月9日～21日
会場:高輪画廊(銀座)
大庭英治教授、福島唯史教授、嶋村有里子講師、大山智子助手、設楽俊元助手、他が出品します。
■第5回未来展—美大の競演
会期:7月下旬～

会場:日動画廊(銀座)
福島唯史教授が実行委員、審査委員を務め、美術学科卒業生から30歳以下の推薦作家4名が出品、グランプリを競います。
■前田寛治大賞展
会期:7月頃

会場:倉吉博物館(鳥取県)、高島屋(日本橋)
大山智子助手が出品します。
■大山智子個展
会期:9月1日～
会期:ギャラリー・サロンドエス(銀座)
大山智子助手の個展が開催されます。

音楽ブロック



●平成29年度 卒業論文要旨発表会
平成30年3月14日(水)江古田校舎・東棟6階音楽小ホールに於いて、卒業論文が優秀であった学生による卒業論文要旨発表会が開催されました。発表者は次の通りでした。

<理論コース>

相楽明日香

<音楽教育コース>

井川千春、志知由美子、千崎恵

<情報音楽コース>

長澤敏生、須田めぐみ、石井友美、溝下晴久

●平成29年度 卒業演奏会

平成30年3月14日(水)練馬文化センター・小ホールに於いて、卒業演奏及び卒業作品で優秀であった学生の出演する卒業演奏会が開催されました。出演者は次の通りでした。

<作曲コース>

芝田佳央(作品発表)

<声楽コース>

木村弥素子(ソプラノ)、山本一樹(バ

リトン)、松原悠馬(テノール)、福田万由香(ソプラノ)

<ピアノコース>

小針侑也、有泉達史、松島聖響、芦川崇人、佐々木絵理、奥山千夏

<弦管打楽コース>

小熊祥太(サクソフォン)、阿部美幸(フルート)、高橋茉佑(トロンボーン)、加藤梨紗(サクソフォン)、福島慶之(サクソフォン)

●日本ピアノ調律師協会主催 第19回新人演奏会 東京文化会館・小ホール

平成30年4月23日(月) 17:00開演
ピアノ独奏 小針侑也

●第88回 読売新聞主催新人演奏会 東京文化会館・大ホール

平成30年5月4日(金・祝)・5日(土・祝)
サクソフォン独奏 小熊祥太 ピアノ伴奏 佐々木絵理

ピアノ独奏 小針侑也

ソプラノ独唱 木村弥素子 ピアノ伴奏 有泉達史

作品発表 芝田佳央 ピアノ独奏 芦川崇人

●ヤマハ管楽器新人演奏会

平成30年6月21日(木)第36回クラリネット部門 ヤマハホール
クラリネット独奏 山崎稜雅

平成30年6月22日(金)第22回木管楽器部門 ヤマハホール

サクソフォン独奏 小熊祥太
●ムラマツ・フルートデビューリサイタル

日時未定 東京オペラシティ・リサイタルホール

フルート独奏 阿部美幸(小リサイタルの形で演奏します。)

●第15回サクソフォン新人演奏会 平成30年5月5日(土・祝)川崎市高津市民館ノクティーホール

サクソフォン独奏 小熊祥太
●平成30年度 音楽学科夏期受験準備講習会

平成30年8月6日(月)～8日(水)に開催いたします。校友会員の皆様のお知り合いを、ぜひご紹介ください。

●平成29年度で退職なさった先生は次の通りです。

長い間、ありがとうございました。二俣泉先生、川上勝功先生、大川内弘先生、右近大次郎先生、吉田将先生

●今年度より次の先生が新たに講座を担当しております。

岩宮眞一郎先生(特任教授)、野口千代光先生(客員教授)、宮本恵先生、西山健一先生、河村幹子先生

文芸ブロック



■第16回 江古田文学賞発表 卒業生の儀保佑輔さんが受賞
2017年12月25日発行の「江古田文学」96号誌にて、第16回江古田文学賞

の最終候補4作全文と選考会の模様が公開され、選考の結果、文芸学科卒業生・儀保佑輔さんの小説「亜里沙は水を纏って」が江古田文学賞に輝きました。儀保さんはほぼ同時期に第43回新沖縄文学賞を小説「Summer Vacation」で受賞しており、ダブル受賞の快挙となりました。

■大山海さんの『東京市松物語』が刊

行されました

在学中より漫画家として活動中の文芸学科3年生・大山海さんのコミック『東京市松物語』が刊行されました。青林工藝舎刊、2017年9月25日発行。

■浦土之混乱さんが第7回講談社ラノベ文庫新人賞を受賞

文芸学科4年生の浦土之混乱(うらどのまぜらん)さん(ペンネーム・本

名非公開)が「HERO SHOW!!」で第7回講談社ラノベ文庫新人賞佳作を受賞しました。

■夏樹香葉さんが第16回角川ビーンズ小説大賞、〈奨励賞〉〈読者賞〉を受賞

文芸学科在籍中の夏樹香葉さん(ペンネーム・本名非公開)が、小説「剣影の騎士」で第16回 角川ビーンズ小説大賞、〈奨励賞〉〈読者賞〉を受賞しました。

■井口葉月さんが、第11回宗祇白河紀行連句賞に入選

文芸学科1年生の井口葉月さんが、第11回宗祇白河紀行連句賞に入選しました。

■羽生田幸来さんが「さかい利晶の杜 ネットで短歌2017冬」にて準グランプリを受賞

文芸学科4年生の羽生田幸来さんが「さかい利晶の杜 ネットで短歌2017冬」にて準グランプリを受賞しました。

■佐藤述人さんが第24回三田文学新人賞を受賞

2018年1月27日、第24回三田文学新人賞の選考会が行われ、文芸学科4年生・佐藤述人(さとう じゅっと)さんの「ツキヒツジの夜になると」(『うそのつき方』を改題)が受賞作に決定しました。

演劇ブロック



■受賞のお知らせ

平成29年度(第72回)文化庁芸術祭舞踊部門において石井智子さん(平成元年度卒)が「石井智子スペイン舞踊団公演」の成果で大賞を受賞しました。おめでとうございます。

また、平成30年日本舞踊各流派合同新春舞踊大会において、若見匠祐助(本名・丸山雄資)さん(平成15年度卒)が最優秀賞を、若柳杏子(本名・池杏子)さん(平成25年度卒)と藤間眞白(本名・勝田真以)さん(平成22年度卒)が大会賞を、それぞれ受賞しました。おめでとうございます。

■訃報

現代舞踊家の旗野恵美(本名・旗野恵美子)さんが1月20日に、日本舞踊家

の花柳昌太郎(本名・今野和俊)さんが2月4日に逝去されました。

お二人とも永年にわたり、出身学科である演劇学科の舞踊教育に多大なご尽力をされました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

■実習発表のご案内

2018年度の舞台発表の日程が下記の通り仮決定致しました。演目・開演時間などの詳細は決定次第演劇学科ホームページでお知らせ致します。いずれも入場無料ですが、要予約となっております。お申込はホームページまで。

会場は▽江古田校舎・中ホール

▼所沢校舎アートセンター・ブラックボックス

▽総合実習ⅡA(3年演劇)

6月14日(木)~16日(土)

▽総合実習ⅡB(3年洋舞)

6月29日(金)~30日(土)

▽卒業制作中間発表(日舞)

7月14日(土)

▽総合実習ⅣB(4年洋舞)

7月27日(金)~28日(土)

▽総合実習ⅢB(3年洋舞)

10月5日(金)~6日(土)

▼総合実習ⅠA(2年演劇)

10月11日(木)~13日(土)

▼総合実習ⅠD(2年演劇)

10月25日(木)~27日(土)

▼総合実習ⅠB(2年洋舞)

11月9日(金)~10日(土)

▽卒業制作(演劇)

11月16日(金)~18日(日)

▽総合実習ⅡC(3年日舞)

11月23日(金)~24日(土)

▽卒業制作(日舞)

12月1日(土)~2日(日)

▽卒業制作(洋舞)

12月8日(土)~9日(日)

▼総合実習ⅠC(2年日舞)

12月15日(土)

▽総合実習ⅢA(3年演劇)

12月20日(木)~22日(土)

放送ブロック



□【ACジャパン広告学生賞】にて受賞
「ACジャパン広告学生賞」は、数ある学生広告賞の中でも難関中の難関。公共広告をテーマにしており審査基

準も大変厳しい広告賞です。平成30年第14回「ACジャパン広告学生賞テレビCM部門」において、放送学科「CMⅢ」(3,4年生対象の選択必修科目)を受講する学生たちのチームが企画制作した作品が、審査員特別賞、優秀賞を獲得しました。

●審査員特別賞「ベットはゴミじゃない」:放送学科 内田奈々/泰良恋未/石井貴之/山崎美沙/成田基将

●優秀賞「白は目立つ」:放送学科 山内理美/藏道真琴/佐伯一能/椿幹太/早川静

□NHK全国大学放送コンテスト
<今井杏香さんがアナウンス部門で第1位>

放送学科4年でオーディオ無線研究会所属の今井杏香さんが、第34回NHK全国大学放送コンテストのA

ナウンス部門で第一位を獲得しました。アナウンス部門は、全国から115作品がエントリーされ、予選を通過した8名が京都アスニー(京都市中京区)にて行われた本戦に出場。今井さんは、自作原稿「目で生きるカフェ」のアナウンスで最高の評価を得ました。

<松原佑基君と川山果純さんが朗読部門で入賞>

全国から208作品がエントリーされた同コンテストの朗読部門では、放送学科2年で日芸アナウンス研究会所属の松原佑基君と川山果純さんが予選を通過し本戦に出場。松原佑基君は、『夜は短し歩けよ乙女』の朗読で2位、川山果純さんは『響け！ユーフォニアム 北宇治高校吹奏楽部へようこそ』の朗読で3位に入賞しました。

□フジテレビヤングシナリオ大賞佳

作受賞

これまで野島伸司さんや坂元裕さんら数々の人気脚本家を輩出してきた「フジテレビヤングシナリオ大賞」。第29回同賞において、放送学科2011年卒業の相馬光さん作『サヨナラニッポン!』が佳作を受賞しました。

□見る聞く感じる「あてまの森放送局」実習科目「ラジオ制作Ⅲ」(田中千恵師・放送学科卒)で、2017年11月11日から17日にかけて、江古田校舎のアートギャラリーで展示企画「あてまの森放送局」が開催されました。この企画は、夏にフィールドレコーディングの合宿で訪れた新潟県十日町当間高原の自然音を使い、臨場感ある音の再生と照明の効果でギャラリーの空間表現をするというものです。そして、収録した自然音で制作した4つの番組をミニFMで飛ばし、高

原で刈り取ったススキの装飾に囲まれる中、来場者にポケットラジオで楽しんでもらいました。期間中おおよそ300人が来場し、大盛況となりました。

□BKラジオ脚本賞で卒業生が最優秀賞を受賞

第38回BKラジオドラマ脚本賞(NHK大阪放送局主催)で黒瀬ゆかさん(平成21年度卒)が、『家族のコツ』で最優秀賞を受賞しました。事故で亡くなった主人公と先に亡くなっていた父、そしてこの世に残された母。3者で交わされる「骨(コツ)ニケーション」という独特な発想で描かれたドラマは、ラジオドラマでしか出来ない物語と高く評価されました。受賞作は、玄理、佐野史郎、押谷かおりの出演で、2018年2月10日にNHK-FMで全国放送されました。

デザインブロック



中村至男さん(1989年度卒業生)さんが第20回亀倉雄策賞受賞

1997年に急逝した亀倉雄策の生前の業績をたたえ、グラフィックデザイン界の発展に寄与することを目的として、遺族の寄付により設立された亀倉雄策賞。公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会(JAGDA)が運営し、毎年『Graphic Design in Japan』応募作品の中から、最も優れた作品とその制作者を表彰するものです。今回は、個展の告知・出品ポスター「中村至男展」が賞の対象となりました。中村至男さんは、CBS・ソニー(現ソニー・ミュージックエンタテインメント)を経て、1997年に独立。初めての絵本『どっとこどうぶつえん』がイタリアのボローニャ・ラガッツィ賞優秀賞を受賞ほか、「松山市立子規記念博物館」のポスターで東京ADC賞を受賞するなど話題を

集めています。

ACC学生CMコンクールにて金澤海月さんが銅賞受賞

一般社団法人 全日本シーエム放送連盟(ACC)は、全国の学生を対象にACC学CMコンクールを実施しています。30回目を迎えた本年(2017年)は、7月3日から8月22日の間に作品受付を実施。全国から2,113本(テレビCM:1,648本/ラジオCM:465本)の応募がありました。この中から本学デザイン学科3年の金澤海月さんの作品『怖い話』が見事にテレビCM部門にて銅賞を受賞しました。

銀座・和光 Annex館 バレンタイン・ウィンドウディスプレイ

恒例となった銀座和光のウィンドウディスプレイ。今年もデザイン学科の学生が手がけたウィンドウディスプレイがバレンタインの時期に銀座の街を彩りました。バレンタインの想い一つひとつが集まるように、紙の立体を組み合わせて編み物をモチーフに表現。言葉にならない想いが溢れてくるような温かさを感じる

ことができるウィンドウディスプレイになりました。

場所:銀座・和光 Annex館 1階
期間:2018年1月19日~2月14日
授業名:デザインプロジェクトⅡ
担当学生:岩本真菜さん、和田一輝さん(デザイン学科3年)

ACジャパン学生広告賞(新聞広告の部)入賞

公益社団法人ACジャパンが主催するACジャパン学生広告賞で、デザイン学科から10名が入賞しました。これはACジャパン会員校(大学、大学院、専門学校)の学生を対象とし、未発表のオリジナル新聞広告を制作するというものです。テーマは「公共問題」で、学生が様々な視点で切り口を探し制作しました。今回、多数の入賞者を輩出することが出来ました。3月9日に電通ホールにて受賞式がおこなわれました。

審査委員特別賞
濱田結衣さん (デザイン学科3年)
優秀賞
中村友香さん (デザイン学科3年)
山本沙羅さん (デザイン学科3年)

佐野友美さん (デザイン学科2年)
 小山田乃英さん(デザイン学科3年)

ホームカミングデーにて木村政司教授の芸術学部長就任祝賀会を開催
 デザイン学科からはじめて本学部長に就任した木村政司教授を祝う会が

3月17日にホームカミングデーの会場(江古田校舎学生ホール)にて盛大に行われました。恒例の卒業制作選抜展と合わせての開催ともあり、当日はデザイン学科の卒業生(旧美術学科デザインコースを含む)と現役学生をはじめ、教職員や往年の先生

方などが大勢出席しました。祝賀会のセレモニーの後は軽い食事と飲み物を取りながらの懇親会となり、木村新学部長の周りをはじめあちらこちらに世代を超えた交流の輪が広がっていました。



お悔やみ
 芸術学部校友会顧問(元会長)の久保進さん(演劇33年度卒)が2018年2月6日享年82歳で逝去されました。
 第9代芸術学部校友会会長として校友会の発展にご尽力を頂いておりました。
 故人のご逝去を悼み、謹んでお悔やみを申し上げます。

総会のご案内
 (株)スタジオ・マイ▶1973年設立。
 ビジュアルから立体に至る、デザイン全般を受け持つ。
 (株)スピーチ・バルーン▶1985年、スタジオ・マイの出版部門として発足。
 本年は、石ノ森章太郎先生の生誕80周年です。宮城登米市・ふるさと記念館にて、仮面ライダー写真展『仮面ノ世界』を開催します。昭和ライダー、平成ライダーのTVシリーズの写真を一挙公開! ライダー1号とビルドの立像も展示。
 【会期:4月21日(土)~7月8日(日)】
 お問い合わせ:TEL:03-5999-6911
 design:スタジオ・マイ

編 集 後 記
 平成31年度からの江古田通年化を控え、所沢校舎で行われる授業も残すところこの一年のみです。毎春の春祭こと新入生歓迎行事もラストを迎え、これからは「日藝の卒博」が「日芸祭」と並び立つイベントに育っていくことでしょう。
 (青木)

8つのアート1つのハート



日本大学芸術学部

日本大学芸術学部校友会報・第100号

2018年春季号●平成30年5月発行●

- 編集人 会報編集委員会
- 発行人 田上 竣詞
- 広報担当 西垣仁美 鳥山正晴 笹井祐子
 川上 央 青木敬士 原 一平
 茅原良平 長瀬浩明

- 印刷所 江戸クリエート株式会社
 東京都文京区本郷 3-43-16
 コア本郷ビル
 電話 03-3814-1225

非売品 不許可転載

- 発行所 日本大学芸術学部校友会
 東京都練馬区旭丘 2-42-1
 日本大学芸術学内
 電話 (03) 3554-5363
 事務担当 星野 祥子

- 表紙
 平成29年度写真学科卒業制作
 氏名:金成津
 タイトル:『01』

8つのアート1つのハート

日本大学藝術学部

Photography/Cinema/FineArts/Music/LiteraryArts/Theatre/Broadcasting/Design

◆ 大学院 芸術学 研究科 ◆

- ◇ 博士前期課程 / 文学学専攻 / 映像芸術専攻 / 造形芸術専攻 / 音楽芸術専攻 / 舞台芸術専攻
- ◇ 博士後期課程 / 芸術専攻

熱気・やる気・元気

江古田校舎

OPENCAMPUS

6・24 予約不要・入退場自由
[日] 10:00~16:00

学部全体説明会(入試説明含む)/模擬授業/
ワークショップ/個別進学相談コーナー 他
美術学科・デザイン学科では作品を持参した方にアドバイスいたします

江古田校舎

入試相談会

11・3 [土・祝]・4 [日]
10:00~16:00 予約不要・入退場自由

個別進学相談コーナー/ビデオ上映コーナー 他
美術学科・デザイン学科では作品を持参した方にアドバイスいたします
11月2~4日に芸術学部祭を実施していますので、学生主催の
イベントやキャンパスの雰囲気もご覧いただけます

江古田校舎

入試博覧会

3・17 予約不要・入退場自由
[日] 10:00~16:00

個別進学相談コーナー/ビデオ上映コーナー 他
美術学科・デザイン学科では作品を持参した方にアドバイスいたします
当日は日誌の卒博を実施していますので、
学生の卒業作品やキャンパスの雰囲気もご覧いただけます

8つのアート1つのハート



日本大学藝術学部

<http://www.art.nihon-u.ac.jp/>

■ 江古田校舎 練馬区旭丘 2-42-1 TEL.03-5995-8282 ■ 所沢校舎 所沢市中富南 4-21 TEL.04-2993-2212